

プロの話芸児童感心

瓜生小で寄席しぐさに挑戦

若狭町

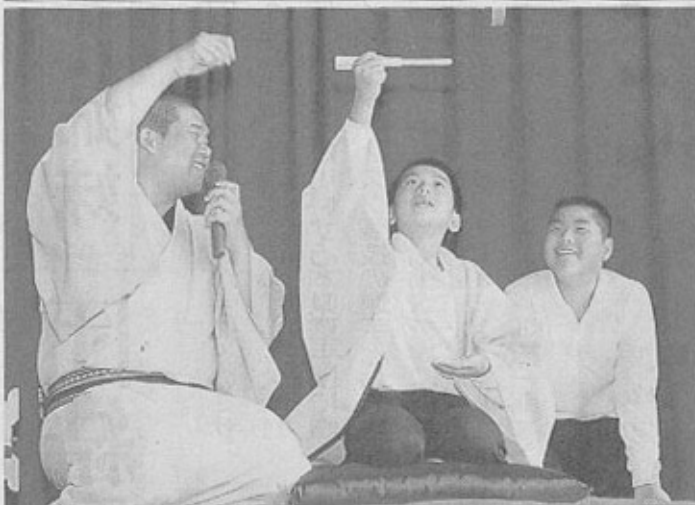
みんなで……
読もう

若狭町瓜生小で28日、上方落語家、林家染太さんの寄席が開かれた。児童たちはプロの話芸を楽しんだほか、扇子や手ぬぐいを使ってうどんの食べ方や鼻をかむしぐさに挑戦し、日本の伝統文化に親しんだ。

町制10周年記念事業の一環、全児童約140人と地域住民が参加した。

染太さんは「落語を楽しむには想像力が必要」と話し、扇子を携帯電話

に、丸めた手ぬぐいを焼き手に見立て、巧みな動情に引き込まれ、大ききと話を繰り広げた。児童らはコミカルな表な笑い声を上げていた。



扇子を使いうどんの食べ方に挑戦する児童—
28日、若狭町瓜生小

染太さんに習い、小道具を使ったしぐさにも挑戦した。うどんをすすったりする音を出しながらの動作に四苦八苦。自由自在に形を変える南京玉すだれも体験した。

寺田仁君(6年)は「うどんをすすする音や、扇子の簀でうどんを上げ下げするのが難しかった。染太さんが一人で何役も演じるところがすごいと思った」と感心していた。

(前田佳寿人)

漢字にふりがな

毎日1記事

本紙は未来を担う子どもたちに、より新聞に親しんでもらおうと、全ての漢字にふりがなを付けた記事を毎日1本掲載しています。「みんなで読